

建設未来京都フォーラム 2016 記念事業

インタビュー集

“女性たちが語る建設業の未来”

—私にもできるはず—

①

建設未来京都フォーラム事務局

## ごあいさつ

自然災害の現場にいち早く駆けつけ啓開作業にあたり、黙々とインフラ建設・整備に取り組み、支える建設業の人びと。その姿には誰もが胸を打たれ感謝の念を覚えます。

一方、少子高齢化のなかで進行する入職者不足を、国は女性の活躍や処遇改善などの施策や、「i-Construction」などの技術革新での効率化や生産性向上の推進で打開に努めています。

国土を守るという建設業の本来の役割やその行方を私たちが見失い、手放すことは、私たちの暮らしや社会の根幹を失うことにもつながります。

建設業を支えているのは男性ばかりではありません。女性たちもまた、建設業に多様な形で関わり続けてきました。そこで、今いちど、女性たちの声を聴かせていただきたいと、女性たちによるインタビュー集を発行することにいたしました。

多忙な日常のなか、豊かで共感力と想像力に満ちた言葉をお寄せいただきました女性の皆さんに心より御礼申し上げます。さらには、男性の皆さんからも、深い女性理解にあふれたご意見を頂戴いたしました。

インタビュー集作成を通じて、女性、男性と、ことさらに区分けすること自体が不要になる日が、近づいていることを確信することができました。

今年で三年目となる建設未来京都フォーラム記念事業として企画しましたインタビュー集『女性たちが語る建設業の未来 一私にもできるはず一』が、建設業という大きな産業の行方を照らす光となることを願い、溢れる言葉を紡いでいただきました皆さんに、重ねて感謝申し上げます。

## 建設未来京都フォーラム 2016 記念事業

### インタビュー集『女性たちが語る建設業の未来 一わたしにもできるはず一』 NO.1

#### “ 地図に残る仕事ができる喜び ”

##### ➤ プロフィール

- ・性別：男性
- ・建設業に関わった年数：42年
- ・建設業に関わったきっかけ：

大学をやめたことにより勘当されたため、手に職をつける必要があったため

- ・職種（できるだけ具体的に）：

工事管理(おもに土木分野)

##### ➤ 質問① 建設業と関わった喜びや、やりがいについて

※建設業と関わった喜び

地図に残る仕事ができること

自分の携わった現場(インフラ)が残ることにより、自分の存在価値を見いだすことが出来ます。

※やりがいを感じたこと

娘が小学生の頃、家族でのドライブ中に私が管理していた橋を渡った時に、妻が「この橋はお父さんが造ったんやで」と娘に話してくれた時、やりがいを感じた、というか嬉しかったです。

##### ➤ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

※現在、一番苦労している事

技術の継承というか、やはり若手技術者の確保です。

※工夫している事柄

今の若者に私たちの時代の考え方(スバルタ)をしても理解してもらえないと思い、できるだけ具体的に説明しています。また、必ずメリットを話すようにしています。

##### ➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

※今まで続けて来られた理由

時間に束縛されないこと（工場のように時間に追われないためです。例えば工場の場合、ラインに入っていればトイレにも行けないですが、土木現場の場合は自分で時間を整理することができます。

※長く仕事を続けていくためには

私たちの時代とは違い、「安定した休日」の確保と考えます。

##### ➤ 質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

※女性の場合

女性への配慮です。（女性専用のトイレを設置すれば良いという問題ではないと考えます）  
まず、我々男性の女性への“思いやり”が重要です。

※若者の場合

職場に女性技術者が活躍できる場を設けることです。建設業界のイメージアップに繋がり若者がこの業界に興味を持つと思います。かつ、教育システムの構築かと考えます。

※ご協力まことにありがとうございました。

## 建設未来京都フォーラム 2016 記念事業

### インタビュー集『女性たちが語る建設業の未来 一わたしにもできるはず一』 NO.2

#### “建物一つひとつに、職人の知識・技術・誇りが込められている”

##### ▶ プロフィール

- ・性別：女性
  - ・建設業に関わった年数：15年
  - ・建設業に関わったきっかけ：  
転職による
  - ・職種（できるだけ具体的に）：  
事務（一般、庶務、経理等）
- 

##### ▶ 質問① 建設業と関わった喜びや、やりがいについて

事務方ではありますが、書類作成などの業務を通して、建物を修繕し守る現場の方々と直に接触することで、多くの人が活動する建物を「私も一緒に守っているんだ」と実感しながら働くことを嬉しく思います。

##### ▶ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

なかなか現場の方々と直接顔を合わせることがないので、もし会える機会があればさりげなく最近の調子を聞き、体調や安全について注意喚起を心掛けています。また、どうしても屋外での作業が多いので、季節や天候により作業員の方々の体調等が気になりますので、事務方として、小さいことからでも様々なフォローが出来ればと思っております。

##### ▶ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

多くの（現場従事者の）方が誇りを持って仕事をされているのを直で見ているので、その方々を自分も支えたいと思い、今まで続けてこられたのだと思います。

心身ともに健康でないと質の高い仕事はできないと考えますので、長く仕事を続けていくためには休養（休日）は不可欠であると思います。

##### ▶ 質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

「体力だけの仕事」では決してない、ということを周知することが必要だと思います。自分たちが普段過ごしている建物一つひとつに、職人・作業員の方々の知識・技術・誇りが込められているということを知る人が増えれば、建設業を志す人も増えると思います。

※ご協力まことにありがとうございました。

## 建設未来京都フォーラム 2016 記念事業

### インタビュー集『女性たちが語る建設業の未来 一わたしにもできるはず一』 NO.3

#### “現場が円滑に業務遂行するため潤滑油のような存在でありたい”

##### ▶ プロフィール

- ・性別：女性
- ・建設業に関わった年数：15年

・建設業に関わったきっかけ：

転職による

・職種（できるだけ具体的に）：

現場以外の仕事には全て関わっています。総務であり経理であり人事であり、各種申請から一般事務の書類作成、電話や来客の応対、雑用まで etc.

##### ▶ 質問① 建設業と関わった喜びや、やりがいについて

現場が円滑に業務を遂行するための気配りや目配りは、社内業務において重要な仕事だと感じています。事務所というバックヤードから業務を迅速に処理し現場をサポートすることは、やはりやりがいの一つです。

また、皆さん気が軽く声をかけてくれるおかげで毎日楽しく仕事ができていると感謝しています。

地元の建設業者として地域の安全を支え、インフラを守り、災害時の応急復旧作業、奉仕作業等で活躍する姿に接し、建設業の魅力と重要性を感じています。

##### ▶ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

社内だけでなく、協力会社や取引先も男性の比率が高いので、コミュニケーション面で男性に欠ける部分を埋めていく潤滑油のような存在でありたいと思っています。業務の進行には、チームワークが大切ですが、男性は横の連携をとる事が苦手なような気がします。連携プレーから相手を理解でき、業務上のミスを避けることもできます。社内の人間関係が良ければ、自然と業績にも反映されていきます。もっと女性目線を活かしたサポートを広げていければと思っています。

##### ▶ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

実るほど頭を垂れる稻穂かな、という言葉のように、ベテランほど謙虚であれと日々感じています。ただ、謙虚だけでなく一本筋が通り、自分をしっかりと持つことも大切です。謙虚さと感謝の気持ちを忘れず、仕事に誇りを持ち、楽しみ、キャリアアップを意識する、そういう気持ちが必要です。

また、私の場合は業務内容が多岐にわたるので、常に優先順位を考え処理することを心がけています。要求されている仕事を早く正確にこなしていく事は、積み重ねの大きな強みだと感じています。

##### ▶ 質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

中小企業での管理方法はトップダウン型が多いようですが、現場ごとに特色がある建設業では社員ひとりひとりが経営を考えるようなボトムアップ型が必要だと感じています。それぞれに利点はありますが、

柔軟で風通しの良い環境をつくる事は大切です。

近年は空前の女性活用ブームが起こっていますが、建設業界においてはやはり男社会という概念が拭えない感があります。また、縦社会も色濃く残っており、女性や若年層に対する教育も他業界より遅れがあることは危惧すべき点だと感じています。

※ご協力まことにありがとうございました。

## 建設未来京都フォーラム 2016 記念事業

### インタビュー集『女性たちが語る建設業の未来 一わたしにもできるはず一』 NO.4

#### “協会員の方々の社名の入った工事現場を見かけると誇らしい”

##### ➤ プロフィール

- ・性別：女性
- ・建設業に関わった年数：2ヶ月半

・建設業に関わったきっかけ：

子供が小学校へ入学し、育児が落ち着いてきたので

- ・職種（できるだけ具体的に）：  
建設業協会での事務全般

##### ➤ 質問① 建設業と関わった喜びや、やりがいについて

建設業は公共事業など私たちの生活に密着していて、この仕事に就いてからより身近に感じるようになりました。私たちの発信する情報（入札・講習会等）で協会の会員の皆さんのが1件でも多くの工事に着手できることが喜びです。町中で会員の方々の社名の入った工事現場を見かけると、とても誇らしく思います。会員の皆さんのが貢献できるように頑張りたいです。

##### ➤ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

以前は他業種の仕事をしていたので、建設業の知識がなく専門用語などわからず苦労しています。まだ建設業は男性の職場というイメージもあり、少しでも知識を身につけていきたいです。日々勉強です。

##### ➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

まだ入社して2ヶ月半ですが、長く仕事を続けていくためには、健康と勉強（スキルアップのための）、そして心の強さが必要だと思います。あと女性ならではの気配りも。まだまだ私自身には足りない部分ですが経験と共に身につけていきたいです。

##### ➤ 質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

厳しい職場です。特に若者へ技術を伝えていくには、ベテランの方々の指導とサポートが必要ではないかと思います。女性に関しては会社側のバックアップが必要ではないでしょうか。まだ入職して日が浅いのでしっかりととした回答ができず、すいません。

※ご協力まことにありがとうございました。

## 建設未来京都フォーラム 2016 記念事業

### インタビュー集『女性たちが語る建設業の未来 一わたしにもできるはず一』 NO.5

“結婚・出産・育児を考えたら、今と同じペースでは働けない”

➤ プロフィール

・性別：女性

・建設業に関わった年数：3年

・建設業に関わったきっかけ：

高専の土木系の学科に入学したため

・職種（できるだけ具体的に）：

建設コンサルタント 主に河川構造物の設計

➤ 質問① 建設業と関わった喜びや、やりがいについて

発注者の抱える課題を、解決する手伝いができたこと。

➤ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

苦労していることは、労働時間が長いことです。

➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

周りの人間関係が良好なためだと思います。結婚・出産・育児を考えた時に、今と同じペースでは働けないと思うので、ワークライフバランスが必要だと思います。

➤ 質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

建設業に従事する人が増えて、一人ひとりの仕事量を減らすことが必要だと思います。

※ご協力まことにありがとうございました。

## “工事施工中の地元住民様から感謝していただく喜び”

➤ プロフィール

- ・性別：女性
- ・建設業に関わった年数：28年

・建設業に関わったきっかけ：  
結婚がきっかけでした。主人が創業しました。

- ・職種（できるだけ具体的に）：  
建設業に関わる業務・経営・労務全般 あらゆる業務

➤ 質問①建設業と関わった喜びや、やりがいについて

- ・施工工事評価点が80点以上で、行政の発注者より企業が表彰された時
- ・毎年の入札参加資格の申請時、格付けが上がった時
- ・厳しい競争下で工事が落札出来た時
- ・厳しい条件下で工事が無事に完成した時
- ・工事施工中の地元住民様より感謝していただいた時
- ・企業および個人が建設業に携わる為に必要とする資格取得を目標に掲げ、取得した時

➤ 質問②現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

- ・現場と総務の連携がうまく取れない。
- ・経営者、技術者、管理者、熟練の現場作業員と立場の違いで、それぞれの考え方があり、統一を図ることが難しい。
- ・クラウド上で共有できるシステムを導入するが、全員で共有が難しい。

➤ 質問③上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

- ・第一に家業であり、生活の為。気が付いたら、義務や責任が増えていた。
- ・何を置いても、この仕事が好きである事。向上心は不可欠だと思う。

➤ 質問④あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

- ・家庭と仕事の両立や家族の共有時間が必要な時代になり、やはり、土曜日や祭日の休暇の確保は必然だと思う。
- ・高所得、傷病の際の保障、手厚い福利厚生など、厳しい条件下で日々働く労働者は、優遇されるべきであると思う。

※ご協力まことにありがとうございました。

## 建設未来京都フォーラム 2016 記念事業

### インタビュー集『女性たちが語る建設業の未来 一わたしにもできるはず一』 NO.7

#### “長く仕事を続けていくためには、やりがいと妥当な評価が必要”

##### ▶ プロフィール

- ・性別：女性
- ・建設業に関わった年数：13年
- ・建設業に関わったきっかけ：

結婚を機に以前の職場(建設業以外)を退職しましたが、子供の成長に伴い、再就職を事務職で探していたところ建設業の事務で採用になりました。

- ・職種（できるだけ具体的に）：  
建設業事務

##### ▶ 質問① 建設業と関わった喜びや、やりがいについて

当社の施工が評価された時や、自身の仕事に対し評価を受けた時。

##### ▶ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

業務内容が、多岐にわたり単発的な事柄も多く、事務職間での確認作業が確立されていないため、現在試行中です。

##### ▶ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

社内での業務内容を評価して頂いていること、家庭の事情で月に数回遅刻、早退することを理解して頂いていることが、この会社で続けてこられた理由です。

長く仕事を続けていくためには、やりがいがあること、妥当な評価を受けること、社内での人間関係が円満であることが必要だと思います。

##### ▶ 質問④あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

仕事のやりがいや面白み等を感じられればいいと思います。例えば、社内に尊敬できる先輩がいてお手本で業務をするとか、指導してもらうとか、現実的な資格取得とかの目標を設定し努力するとか。また、自分の思っていることを發揮できる職場であることが必要だと思います。

※ご協力まことにありがとうございました。

## 建設未来京都フォーラム 2016 記念事業

### インタビュー集『女性たちが語る建設業の未来 一わたしにもできるはず一』 NO.8

“仕事のやりがいを実感できる働き方や業務に携わりたい”

➤ プロフィール

- ・性別 : 女性
- ・建設業に関わった年数 : 20年
- ・建設業に関わったきっかけ :  
大学の先生からの推薦
- ・職種 (できるだけ具体的に) :  
建設コンサルタント技術職

➤ 質問① 建設業と関わった喜びや、やりがいについて

自分の意見や提案を事業に活かすことができたとき。

➤ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄 (業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み)

建設業界の予算が縮小してくなかでの、確実な受注の確保。

➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

家族、会社、周囲の理解や助け。仕事を続けていくためには、趣味等のプライベートの楽しみを確保しつつ、できるだけ幅広い人脈を形成すること。

➤ 質問④ あと 5 年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

仕事のやりがいを実感できる働き方や業務に携わること。

※ご協力まことにありがとうございました。

## 建設未来京都フォーラム 2016 記念事業

### インタビュー集『女性たちが語る建設業の未来 一わたしにもできるはず一』 NO.9

#### “建設業の人々は、自分の仕事の意義をもっと認識することが必要”

##### ➤ プロフィール

- ・性別：男性
- ・建設業に関わった年数：41年
- ・建設業に関わったきっかけ：  
土木工学科の履修と建設業界への就職
- ・職種（できるだけ具体的に）：  
国家公務員（国土交通省）→建設会社

##### ➤ 質問① 建設業と関わった喜びや、やりがいについて

建設された社会資本や建物などは、人々の生活や安全を支えている。そのことを実感できたのは、石巻市渡波地区に作られた渡波海岸の防波堤。これは、一部の政党や無責任なマスコミから無駄遣いと痛烈に批判された。しかし、東日本大震災で街を津浪の直撃から守り、人々の命を守った。

また、大きな災害では、真っ先に災害で壊れた道路の瓦礫等を撤去して救援のための交通路を確保し、地域の命・生活を守っているのは建設業の働く人々である。

##### ➤ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

現在、人手不足が深刻であり、さらに建設関係者の高齢化により、今後ますます、人手不足が加速される。高齢化した建設業に働く人の若返りを図る必要がある。これには、監理技術者だけの実績評価で受注者を選定する方法を改め、現場代理人にも監理技術者と同等の実績評価を行い、若手に実績を付けるなどを行い、技術者の若返りを行う必要がある。そして、省力化が図れる設計に改善していくべきである。また、建設業の魅力をもっと広める必要がある。

##### ➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

建設業に働く人は、自分の携わっている仕事が、人々の安全や生活を支えていることの意義をもっと認識する必要がある。

##### ➤ 質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

建設業は3Kであるとの誤ったイメージを払しょくし、建設業の魅力をもっと発信し、待遇を向上させる必要がある。

※ご協力まことにありがとうございました。

## 建設未来京都フォーラム 2016 記念事業

### インタビュー集『女性たちが語る建設業の未来 一わたしにもできるはず一』 NO.10

#### “何もなかったところに“もの”ができるいく喜び“

##### ▶ プロフィール

・性別：女性

・建設業に関わった年数：合わせて13年

・建設業に関わったきっかけ：

測量士になろうと思い、土木関係の学校に進学し、建設業に就職したため

・職種（できるだけ具体的に）：

※転職していますので、職種が変わっています

・土木施工管理　　・現場事務所事務　　・設補助事務

##### ▶ 質問① 建設業と関わった喜びや、やりがいについて

何もないところから、物が出来上がる喜びだと思います。また、生活にも密接していますので、とても大事な仕事だと思います。社会貢献度の高い仕事だとも思っています。

（建設）事務業をしていた時も、直接現場には行きませんが、施工がスムーズに安全に進められたときは、現場に出た時同様その一員になれたと嬉しかったです

##### ▶ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

卒業してすぐの仕事は、土木の現場施工管理を4年ほど業務に携わっていたのですが結婚のため退職をし、別の建設会社で、派遣で建設業の事務をしていました。16年経ち、当時の上司から声をかけていただき、復職することとなりました。

さすがに歳もとり、家庭もあるので、現場監督としてではないですが土木の世界からは16年ほど離れていたので（事務職はおもに建築だったため）、ITなど発展していることが、まるで浦島太郎のような感じで、また忘れていることも含め、しています

##### ▶ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

正直わかりません。ただ、何度か転職をしていますが建設業界とは違う仕事をしているときには、戻りたいという気持ちもありましたし、仕事を探しているときは、建設業界での仕事を探していました。

事務であろうと、現場管理であろうと、大変であっても何もなかったところに“もの”ができるいくという喜び、それが地図に残っていく喜び、社会に貢献しているという喜び、これに尽きるのではないかと思います。

##### ▶ 質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

かつての『3K』のイメージを払拭すること、「今」ある仕事は、今の生活の基盤になるもの、また未来の生活へもつながっていることを、きちんと継承していくことが大事だと思います。

やっていることは『点』だとしても、未来への『線』となることが伝われば建設業に就く醍醐味なの

だと思います。

また、転職を重ねて思うことは、やはり職場の雰囲気、人間関係が一番かと思います。泥臭いのかもしれません、やはり同じ困難を仲間と共有し、乗り越えていければ、汗する喜び、困難の先の喜びを味わえるのかと思います。建設業で働く私たち自身が楽しいと思えない限りは、次世代も付いてこないと思います

就労条件などの改善が、そのうちの一つではないかと思います。『女性をもっとこの業界に！』ということではなく、男性も女性もへだたりのない業界が、若者が建設業に定着する一つの要因になればいいなと思います。

※ご協力まことにありがとうございました。

## “女性の上司の存在が、女性の立場を理解してもらえて心強かった”

### ➤ プロフィール

・性別 : 女性

・建設業に関わった年数 : 9年

・建設業に関わったきっかけ :

転職の際に、通いやすく、休日などの条件が合う場所を探していたところ、現在の会社にご縁がありました。

・職種 (できるだけ具体的に) : 事務全般

### ➤ 質問① 建設業と関わった喜びや、やりがいについて

実際に現場に出てはいませんので、肌で感じることは少ないですが、現場の方に無事完了検査が終わったと聞いたときは、ほっとしています。また検査結果が良い点数だったとの報告は、とても嬉しく、事務所内の雰囲気も良くなります。現場だけでなく、社内全体でひとつの工事を仕上げるという意識が社内に広がって来たことが嬉しく思います。

### ➤ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄 (業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み)

昨年から工事書類を事務で担当するようになりました。専門用語や現場を知らずして書類を仕上げることの難しさを痛感しています。他にも工期が迫ったときの総務・経理の仕事との両立や、現場の方との進め方の違いに苦労しています。

書類作成といえどやはり経験が必要で、数をこなしながら覚えていくこと、また専門的な知識を勉強していくことも、現場の方と対等な立場を築いていく上で大切なことだと感じています。

### ➤ 質問③上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

良い人間関係に恵まれたからだと思います。建設業は一見、柄の悪い方が多いのですが、気の良い人が多く、いろいろと助けてもらっています。また、女性の上司がいたことで女性の立場を理解してもらえて、心強かったこともあります。10年弱、勤めた間はちょうど子育て時期でしたが、同僚や上司の理解もあり、学校行事や急病時にも快く対応させてくださいました。

### ➤ 質問④あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

昔ながらの職人さんでは、仕事は見て覚えるものとの考え方の方もたくさん見えますが、研修などでまずは丁寧に教えてあげることだと思います。今の若者はあまり欲がないと言われていますので、仕事の技術も、社会人としての在り方も一つ一つ、親身になって教育するというやり方が良いのではないかでしょうか。向上心や責任感は続けていく中で、芽生えてくるものだと思います。

※ご協力まことにありがとうございました。

## “インフラ整備が、自分たちの税金で賄われている実感が大切”

### ➤ プロフィール

- ・性別：男性
- ・建設業に関わった年数：23年
- ・建設業に関わったきっかけ：就職にともない、金融業の中でも建設業特化する会社に就職。
- ・職種（できるだけ具体的に）：  
金融業（顧客対象は建設企業）

### ➤ 質問① 建設業と関わった喜びや、やりがいについて

社会インフラ、特にトンネルや橋梁というような大きな構造物が出来上がるに際し、自分も何らか関係して出来上がっているんだという気持ちになれること。

また、大きな構造物でなくとも、町で行われている工事についても、建設業に関係する前は邪魔な工事だな、などと思っていたが、町の細かなことや、災害時の復旧等でも先頭に立って整備してもらっている大切な仕事だと思えるようになったこと。

### ➤ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

工事を施工する立場ではないので、顧客である建設会社との意識の共有をもって仕事に取り組むこと。自分の常識が相手の常識でないこともあるので、それを自分も理解し、理解してもらうことは難しい。

### ➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

日本のインフラを作っているという実感。そのインフラもまだまだ不足しているという事実。インフラ整備が、自分たちの税金で賄われている実感を一般的に持ってもらいたい。「公共工事は税金の無駄遣い」とはいわれるが、私たちの税金支払いがあるから目の前の道路があり、蛇口をひねると水が出るという現実をしっかり小さいうちから体感してもらうことが必要（目の前の道路を使うのも、水道もタダという感覚を持っている若年層は多いと思う）。

### ➤ 質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

理想的にいうと、大なり小なり生活を向上させるインフラを整備し、人々の役に立っているという達成感を感じてもらいたいと言いたいが、現実的には、シビアで危険性の伴う（その分格好よいとも言えるが）屋外の仕事を行う建設業は、やはりその分責任が伴うので、賃金や手当てが、他の事務職より高くないといけないと思う。

よほど小さな頃から建設業で仕事をする大人を目標にして育つようなことでもない限り、ぱっさりと言ってしまうと、高賃金でない職は今の若者には見向きもされないと思う。

※ご協力まことにありがとうございました。

## “自分が関わった現場が完工したときにやりがい”

➤ プロフィール

・性別：女性

・建設業に関わった年数：10年

・建設業に関わったきっかけ：

求人の中から土日休みの会社を探したらあったから。できれば女性の少ない職場を希望していたから。

・職種（できるだけ具体的に）：

工事書類作成・経理

➤ 質問① 建設業と関わった喜びや、やりがいについて

自分がかかわった現場が完工したとき。

➤ 質問② 現在、一番苦労や工夫をしている事柄（業務上、ワークライフバランスなどの不安や悩み）

男性の多い職場でトイレが共用なのでいろいろと気を使う。職人気質の人が多いので話かけ方など気をつけている。

➤ 質問③ 上記②の課題のネックとその解消についてどうすればよいとお考えでしょうか？

周りの人（一緒に働く職場の男性）の理解。女性の性質などを理解してもらい、歩みよりをする。

➤ 質問④ あと5年後の建設業はどうあってほしいとお考えでしょうか？

若者の性質、特性を理解する。プライベートと仕事を両立できるようにする（勤務時間など）。

※ご協力まことにありがとうございました。